



2022年
11月30日
発行

日本山岳会

「高尾の森」通信



— 広針混交の豊かな森づくり活動 —

会員数：162名
(2022年10月末現在)

行動制限解除により様々なイベントが少しずつ再開され、
また旅行者も増加傾向にあり、これまでの日常を取り戻しつつあります。
引き続き十分な感染対策を行いながら日常を楽しみましょう。



2022.10.8 定例作業、218 林班へ



アカコッコ

伊豆諸島で繁殖している日本固有種で全長約 23cm。

主要な生息地のひとつが三宅島。

島の方言で「赤い鳥」という意味。

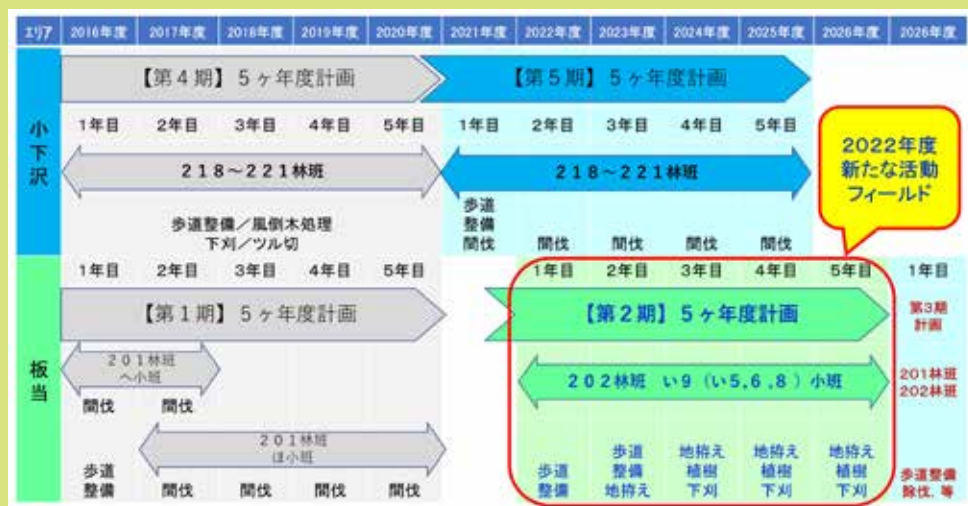
人が放した新たな捕食者の出現や、噴火などによる
生息環境の変化などが影響し、大きく数を減らしている。

絵：横川 信由

<http://JACtakao.net>

新 板当作業計画

フィールド担当 早川憲也



コロナ禍における社会活動の在り方が徐々に見えてきたこともあってか、2022年度に入って森林整備活動の公募が始まりました。当会ではこれまで準備してきたプランを提出し、2022年6月17日に「ふれあいの森における森林整備活動に関する協定書」を締結することが出来ました。

板当国有林は、過去20年間実施してきた小下沢の活動フィールドでの針葉樹の保育間伐とギャップ地への広葉樹の植林活動がほぼ終息したため、新たな針広混合林の育成活動のフィールドとして2015年から調査を進め、2016年度に5ヶ年計画をスタートさせたエリアです。このエリアは、板当の5ヶ年活動の最終年度である2020年度初頭から、代表を始めとしたフィールド担当の方々により、新たな協定書の締結に向け調査・準備を進めてきたエリアです。

2022年度から活動を行う「板当202林班 い9小班」という場所は、日当たりの良い南東斜面で、2015年に全伐を実施した跡地にはコナラ等の広葉樹が植樹されましたが、その後の保育が不十分なのか茨や早成木が生い茂る藪になっており、活着も悪く当会の調査では植栽木は2割程度しか残っていませんでした。エリアの上部

新板当活動フィールド



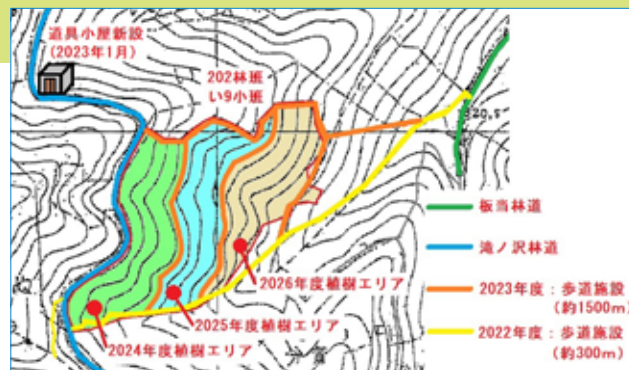
は日当たりの良い乾いたガレ場でタラノ木やサンショウ等の植物が密集し、下部の茨の中はけもの道が縦横に走る野生生物の楽園でした。

この荒廃したエリアに将来高木となる広葉樹を育て、生物多様性に富んだ豊かな森を作る活動を行うため、まず初年度(2022年度)には、滝ノ沢林道と板当林道を結ぶ約300mの歩道を整備し、緊急車両を板当林道にも配置出来るようにし、更に滝ノ沢林道には道具小屋を設置します。これにより上下から物資搬入や、緊急時には上下から人員も輸送できる体制を構築します。

2023年度はエリア全域に作業道を整備し、2024年度には板当で植樹祭が開催出来るようにエリア上部で除伐・地拵えを実施します。

除伐・地拵えに関しては、従来の植栽木であるコナラ、自生の落葉高木を活かし、鹿の食害対策も考えながら、他の野生生物が繁殖できる環境にも配慮した、合理的で効果的な作業計画を立案し遂行しなければなりません。この難しい課題をクリアするためには、植生調査や動物調査、更には森の研修会等、様々な活動を板当で実施し、植栽木と一緒に我々メンバーも成長しなければなりません。新たな人材育成の場としても板当国有林を有効に活用し、熟練メンバーが持つ英知を集結し、若い力を推進力として、高尾の森づくりの会の総力をあげて今後の作業計画を実現させたいと願っています。

板当202林班い9小班作業エリア





シカ 被害状況報告

高尾の森づくりの会では2022年4月に2015年以来7年振りとなる植樹祭を実施しましたが、小下沢の活動エリアでは2015年当時とは比較にならないほどシカが増殖しており、新たな植栽地となった都有林の4の沢奥のエリアではシカによる手痛い食害を受けることとなりました。

4月に植樹を実施した後、活着状況を確認に行ったメンバーから大半がシカによる食害にあったとの報告が寄せられ、その被害内容は植栽木120本のほぼ全てに対し葉を全て食べつくし、植栽木の幹はかみちぎられ(写真1, 2)、篠竹までも噛み砕き引き抜く(写真3, 4)といった状況でした。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

シカによる被害の実態を観察するために、7月には都有林の4の沢奥の植栽地に自動撮影カメラを設置し、被害の映像記録をスタートさせました。

8月末に再び植栽木の被害調査を実施した所、全ての葉が食い尽くされていましたが、120本中92本は新たに小さな葉を開き懸命に生き延びようとしていました。

7月に設置した自動撮影カメラには約3ヶ月で数十件のシカ、カモシカの映像が確認され、シカについてはメスの親ジカと2匹の子ジカが戯れる姿や、植栽地の林縁では睡眠を取った痕跡(写真5, 6)や、糞、足跡等多数目撃でき、都有林の4の沢は明らかに鹿の生活拠点となっていることが判明しました。

更に最近の自動撮影カメラ映像では、4の沢の入口の道具小屋の周辺でもシカの映像が確認(写真7)される事態となりました。幸い4の沢の入口の2021年11月の京王親子森林体験スクールの植栽木は、シカ被害を懸念し当会としては初めてのツリーシェルターを設置していることと、下刈りを行っていないため周囲に下草が豊富に生育していることもあり、シカによる植栽木の被害は発生していません。



写真7

2022年11月の4の沢のミニ植樹祭でも、2021年11月の京王親子で採用したツリーシェルターを使用し対策を実施します。さらに、2022年4月に被害を受けた都有林の4の沢奥の植栽地に対しても、新たな試みとして被害木の補植を実施すると共に、構造の違うツリーシェルターを2種類自作し、市販のツリーシェルターと併用しその効果の違いを検証します。

ツリーシェルターはシカの食害から植栽木を守ることは既に確認されていますが、ツリーシェルター自体が植栽木に対して与える影響として、たとえば、温室効果、防風効果による成長促進、下刈時の誤伐やツルからのプロテクション効果による生存率の向上等のプラスメリットや、プラスチック壁の被圧による成長の偏りや、夏場の壁内温度上昇による枯渇などのマイナスメリットも考えられ、ツリーシェルターが植栽木に与える影響についても今後実績データを集め、広葉樹に有効なシカ対策が確立できればと、これからの活動に期待を膨らませています。

物づくり・小屋管理班のご紹介

こんなことをやっています

- 丸太材からロゴソール機械を使って板をつくり加工
- 大小さまざまな材料で木工品を製作
- 公共施設や関係法人等のイベントに参加し展示・販売・アトラクションをサポート
【例】「日比谷公園みどりのフェスティバル」、「高尾 599 ミュージアム」参加
- 各種イベント、親子スクールで道具の使い方・製作のサポート
【例】京王親子スクール木工教室 電動工具類の説明、丸太からの板作り見学、ものづくり(丸太切り、巣箱、竹とんぼ、箸、おもちゃ など)
- 道具・機械類の調達、管理、部品交換、修理、不用品処理
- ベース小屋の外壁・ウッドデッキの補修管理
- トイレの清掃、手洗い用水の補充



ある日のメンバー

こんな日に こんなメンバーでやっています

- メンバー約 20 人が**毎週木曜日**と**第 3 土曜日**に作業活動、自由気ままに参加
- 木工品を正確・同サイズにつくる為のガイドと工夫に拘る…「アイデア爺さん」
 - 竹製品はじめ「きめ細かい」彫刻、細工は玄人顔負け…今では「熟練彫り物師」
 - 電動工具、道具の使い方やメンテナンス、何でも精通…オールイン「何でも屋」
 - 小屋の周辺のベンチ作りはお任せ、文字通りの…「ベンチャー」

こんな機械・工具を 使っています

普通の人には持っていないような工具がたあ〜くさん!

- 発電機 2 台
- ロゴソール用大型チェーンソー
- 電動卓上丸鋸…超大型・大型・中型・小型・超小型・平板縦切り
- 手動丸鋸…大・中・小・特小・薪用
- 卓上バンドソー
- 溝切りカッター
- 電気カンナ
- 電動ヤスリ
- 電動穴あけ(ドリル)
- インパクトドライバー 4 台



こんなもの作ってます



さて、これで何ができるのかな?



こんな声が嬉しくて
いつまでもハリキッテ!
続けて行きます

工具倉庫



【お客様】石巻・単箱作りが楽しかった。おかげで、学校に単箱を寄贈したので、鳥かごとしてくれるとうれしいです。またやりたいです。よりかたどきはあります。

一箱・みんないい人で、木のおもちゃ、つくりや、大音コンテ、スナックのそかも全部楽しかったです。またやりたいです。ありがとうございます。

メンバー大募集! 面白楽しく一緒に遊びませんか?
前記の活動日「ぶらり・冷やかし&体験遊び」に立ち寄ってください!
いつでも大歓迎です!

**塗装は作業小屋や
トイレの壁板や屋根を塗るのであるが、
人によっては己の洋服や顔、
靴などにもペンキを塗るほど
大変熱心に？取り組んでくれた奮闘記です。**



2006年に作業小屋が先輩たちの頑張りで完成した。その小屋をいつまでも綺麗に保つためにも5年毎に塗装を行なうことを決めた。必要な足場パイプ等購入し2011年、2016年と計画通り取り組んできた。計画では2021年に塗装を行う年度であったがコロナ禍もあり1年遅れの今年(2022年)6年ぶりに実施した。また今回塗装を実施するにあたり大切なことは、次回5年後(2027年)に行うための人材への引継ぎも重要な目的であった。

主な手順は、まず足場を組む⇒汚れている塗装場所を高圧洗浄機で洗う⇒塗装⇒足場の解体となる。8月を準備期間とし、9月作業小屋の塗装、10月にトイレの塗装と大まかな計画を立てスタートした。

足場パイプの確認また足場を固定する治具の点検(油さし)、バン線や針金の準備、塗装用の容器やハケ、ペンキ、等の準備に取り組んだ。

■ 9月小屋の塗装

【第一ステップ：南側と東側の塗装】

足場パイプを組み立てるのだが、6年前に経験した人は極わずかのため2016年に実施した際の記録写真をみながら組み立てる。その足場を活用して塗装前に小下沢からポンプで水を汲み上げ高圧洗浄機で綺麗にした。1週間後に塗装を実施。特に東側(正面も)の塗装箇所は高く危険を伴うため注意して取り組んだ。



【第二ステップ：正面と裏側の塗装】

9月15日塗装完了。高所のため苦労しながらの塗装であった。

作業小屋 ペンキ塗り 奮闘記

松川征夫



トイレ足場準備



トイレ屋根洗浄



トイレ屋根塗装

■ 10月トイレ塗装

今回気づいたのであるがトイレの屋根を支えているベニヤ板がところどころ腐っているのが散見された。そのためトイレでは壁板に加え屋根にも2回のペンキ塗装を実施した。効果を期待している。

■ テラスの塗装

テラスも良く見ると板材が腐ってきているため2回塗装した。テラスは使用頻度が高く痛みも早いので今後5年毎でなく2年毎くらいに行っていきたいと考えている。

■ テント小屋の洗浄

ものづくりに必要な機械を収納している「テント小屋」も汚れていたため高圧洗浄機にて綺麗にした。眩しいほどである。

この原稿を書いていた10月下旬、塗装作業を中心に進めていた三葉さんが急逝されたとの電話が親族の方からあり涙した。いろいろな問題意識の高い几帳面な方であった。10月15日(土)のトイレの壁塗装を終えマイカーで高尾駅まで送り「ではまた!」と言葉を交わしたのが最後となった。無事終わることが出来たのも三葉さんのお陰と感謝します。ご冥福をお祈りします。

8・9月活動日記



2013 年 3 月 植樹前の 13C



2022 年現在の 13C



ツルとの闘い



13C の苗木



作業を終えホッ！

● 8 月の定例作業は台風の影響により、雨天のため中止となった。

● 9 月の定例作業では、2012 年、2013 年の植栽地（12D、13C）のツル切りを実施した。約 10 年前の植栽地は当時の面影はまったくなく、苗木を見つけるのも大変な状態で藪の中でのツルとの格闘となった。

● 11 月のミニ植樹祭準備で、植栽地の巻き落としなどの地拵えが行われた。



C 班 11 月の植栽地で



巻き落とし



植栽地整備

もくじ

新板当作業計画	02
今春植樹地のシカ被害状況報告	03
物づくり・小屋管理班のご紹介	04
作業小屋ペンキ塗り奮闘記	05
8・9 月活動日記	06
10 月活動日記	07
チェーンソー特別教育報告	08
三宅島緑化再生活動	09
庭師の学校	09
森づくりからよその路、道草中	10
麦わら帽子の夏の思い出	10
八幡平山行 あれこれ記	11
新会員紹介	11
事務局からのお知らせ	12

10月活動日記

- 新たな間伐地である 218 林班で 8 カ月ぶりに間伐が行われた。
- ミニ植樹祭の植栽地では、9 月に引き続き雑木の伐採などの植栽地整備が行われた。



機械班出動準備



いつも陰で活躍 久しぶり？の登場 機械班



A 班 作業エリアで



B 班 下山途中



C,D 班



218 林班で



初めての間伐



40 年モノ？



C,D 班 植栽地整備



鉋の刃研ぎ教室？



キノコがたあ〜くさん！
食べるのは自己責任で

チェーンソー特別教育報告

大塚哲生

先般8月と9月の3日間で4名を対象に、初日は座学／二日目はチェーンソー取り扱い実習／最終日は定例作業地にて伐木の実習を行う「チェーンソー特別研修」を行いました。

なお初日の8/27は、あいにく雨天かつベース小屋が使えないため、臨機応変にこしらえた屋外テント教室にて雨の中で座学を実施。二日目は同じく屋外教室にて蚊の攻撃と時には太陽のまぶしさに悩まされるという、厳しい中にも思い出に残る研修となりました。



屋外テントでの座学



手入れ実習



終了証いただきました

期待と驚きの チェーンソー研修

小林道太



この会に参加した時から操作を行いたかった「チェーンソー」。コロナ禍で研修が延期になった昨年来、「待ってました」と喜び勇んで参加表明。

初日は道具小屋前に天幕を張っての野外授業。知らない! 解らない! 驚きの時間はあっという間に過ぎ、翌日は座学後、雨の止み間に倒木を簡易的に建て、チェーンソー操作。早く動かしてみたかったはずなのに、マシン音と排ガスの臭いに足がすくむ。怖さすら感じる。何度も説明を受けたのに、樹に対峙出来ない自分。何とか、樹に切込む事ができたが汗で背中中はビッショリ。伐採が1人前に行えるのはいつだろう。

あのイメージを忘れずに

鈴木泰史



期待を大きく上回る大満足な講習会でした。松隈さんの座学ではチェーンソーの使い方だけでなく伐木作業の基礎を学ぶことができました。今まで現場で都度教えていただいた様々なノウハウを体系立てて理解できたと思います。

実技ではどう切るとどう倒れるのか実感することができました。特に白沢さんの模範演技は息を呑むほど華麗で、あのイメージを忘れないように自分も精進していきたいと思っています。

最後に体調不良でご迷惑をお掛けして申し訳ありませんでした。ご指導いただいた皆さまありがとうございました。

繰り返し受講する大事さ 森中大晴



チェーンソーは今から30年ほど前、学生時代に農場実習の一環で講習を受け修了証を手にしたことがあります。しかし、社会人になってボランティア活動では、あえてチェーンソーを積極的に使うことも無く過ごしてきました。その結果、技能面はもちろんのこと、知識面でも多くのことを忘れてしまっており、今回のチェーンソー研修では知識面の再吸収ができました。

今後は技術面を継続研修等で補いながら、活動で役に立つように精進していきたいと思っています

第24回 三宅島緑化再生活動 三宅島で見た当会の もう一つの足跡

宮森泉



植樹

二日目の朝
錆が浜に虹が



入会2年目の宮森が初めてこの活動に参加してきました。
参加メンバーは9名。

10月14日午後10時半、竹芝桟橋から客船「さるびあ丸」で出航。船室に入るなり車座になって懇親会が始まりました。翌15日午前5時頃、三宅島錆が浜港着。

初日は午前9時から雄山の七島展望台下にて植樹。霧、そして火山性ガスの警報音が聞こえる中、しかも所々岩盤のように固い箇所もありましたが、タブノキとヤブツバキの苗300本を皆で植えました。ここでの活着率は60%程度とのことです。お昼は地元の海苔弁当。これがユニークで、板海苔ではなく、板状にする前のフワフワした海苔がご飯一面を覆っていて、非常に美味でした。

2日目は「甕(こしき)の穴」とよばれる噴火口跡の整備。すり鉢状の火口底部の草刈りや斜面の竹や雑木の伐採等

を行いました。この甕の穴は元々当会が整備した所とのことで、このことは観光案内版や三宅島HPにも紹介されています。この日は夕食後に地元の方も交えての交流会兼打上げ。何故か仕切り役は往きの船でも一緒だった地元の島崎さん。三宅島焼酎もいただきました。

この活動は今回で通算24回目とのこと。活動は植樹に加え、甕の穴や忘れられていた古道の整備等にも及ぶことを知りました。これは島崎さんや佐久間さん(当会の会員)、伊豆緑産様らの地元の方々のサポートが関わっているのですが、この協調・信頼関係を築かれた先輩方に誇らしさを感じました。地元の方々は日曜日にも関わらず帰りの船の出航時には見送りに来てくださいました。今後もこれにに応じていく必要性を強く感じました。

しかし、皆さんよう飲まれますね。おかげで楽しく過ごせた旅でした。

庭師の学校

櫻井範子



電動バリカンで実習中



卒業作庭施工途中



卒業作庭完成!

この4月から半年間通った「庭師の学校」をご紹介します。

「庭師の学校」というのは都立多摩職業能力開発センター(昭島市東町)の庭園施工管理科で、いわゆる職業訓練校です。年齢の高い人向けの学科で、95期生は半数が女性でした。

授業では、植物の生理や繁殖、土壌・肥料などの園芸関連、竹垣作りや石工事、植栽工事、整枝剪定や刈込などの造園関連の知識や技能を学び、それらを総合して伝統的な庭造りの基礎を教わっていきます。講師は現役の植木職人、園芸の専門家など熱意ある方揃い。

ベランダ園芸が趣味の私は植物関連の仕事に憧れて入校しましたが、想像以上にガテンな実習の連続でした。最初は剪定する樹木の高さ、動かない飛び石の重さに

びっくり。期間前半では造園技能士2級の模擬試験でドキドキしたり、最後の1か月は学んだことを生かして共同で庭を造り、達成感を得たりしました。暑いさなかの実習で体力もついた気がします。

27人の修了生の進路は、造園会社や公園の維持管理、園芸店勤務などさまざまです。私は植栽管理や樹木の剪定など、細く長く植物にかかわっていきたくと思っています。

庭は人が作った身近に引き寄せた自然です。庭は設計施工して終わりではなく、日々変化していく木々や草花を限られた環境に合わせて手入れしていくことで美しさ、植物の健康が守られます。里山の森づくりと共通するものがあると感じました。これからも学びながら活動していきたいと思っています。



室戸市御厨人窟
(みくろど)



槍ヶ岳山頂にて

森づくりから よその路、道草中

櫻井美弦



畑全景



宗谷岬のW650

入会以降13年が経ちますが、やりたい路が多く高尾の森の作業を長くさぼっています。

【自己紹介】

故郷は雪国魚沼市(旧小出町)。少年時代は川遊び、林の中での「忍者部隊月光」のように基地作り・遊びに熱中、鉋・斧・鋸・鎌作業は楽しい経験。

【森づくりの会 経過】

2009年：会で活動中の同級生情報から少年時代の思い出が蘇り入会。～2011年2月まで定例作業に参加。2011年3月～：東日本大震災発生3日後に会社工場の被害調査復旧の為、一年間定期的に仙台へ。震災状況を目の当たりにして今迄の考え方、行動を変えました。「明日は分からない、やりたいこと、やり残したこと、先延ばしにしてきたことは今やろう。」2012年4月～：岡山県工場へ転勤、森の作業中断(5年) 2017年4月～現在：千葉県工場へ復帰、森づくりの会 刈払機講習会参加、以降森の作業さぼり中。

【さぼり状況(よその路、道草中)】

①四国遍路：岡山勤務中の延べ二年半の週末で1,400kmの遍路を実施。一日3～40kmほーっとし、自分を見つめる贅沢な歩き旅です。皆様には是非お勧めします。

②畑の路：自宅近くの休耕畑約200坪を借りての野菜作りで5年経過。夏野菜に加え、大好きな独活、茗荷も根付きました。雑草には刈払機講習会で修得した技能が大いに役立っています。

③バイクの路：16歳CB90、20歳カワサキ125TR運転。以降40年休み、60歳カワサキW650で復活、昨年北海道一周。

④山登りの路：山とは縁遠い中、2000年八方池から見た白馬三山岩帯の美しさに驚き、何時か百名山にチャレンジと。現在の最優先の路、達成は来年中に。

【これから】

「今日行く(not教育)と今日用(not教養)をモットーに」

麦わら帽子の夏の思い出

荻澤杜人

趣味は何ですかと問われ、「仕事です」と答えてしまった。遊びを知らずに66年を過ごし、ようやく会社でも厄介ものと悟った今日この頃です。高尾の会の先輩諸氏を見習い、皆さんを道ずれに徹底した遊びを目指したい。今年の夏の思い出、僕の遊びを披露します。

【8/10～11 山形蔵王登山】

久しぶりに故郷の蔵王に登りました。懐かしいお釜の姿を見た後、冬に樹氷になるアオモリトドマツの広範囲に枯死する深刻な状況に悲しみしました。板谷峠を越えるとき、いつも浮かぶ茂吉の「垂乳根の母」の歌、今年知った新たな「足乳根の母」、実は僕はヤギの乳で育てられたのです。蔵王熊野岳に茂吉の唯一の碑文『陸奥をふたわけざまに聳えたまふ蔵王の山の雲の中に立つ』を見ました。

【兼業農家の試行】

自転車で10分程度のところに数年前から約60坪の農地を無償で借りて

いる。高校まで小さな農家に育ったもので、簡単な農作業は見様見まねでソコソコできる。ただ、会社、高尾の会に勤めていての兼業農作業には時間がとれない。策として、ジャガイモ、里芋、落花生、ネギ、山芋等の雑草に負けない作物を育てることにしている。しかし周りの皆さんからは「雑草がうちの畑に広がる、何とかしろ」とのクレームを受けながら耐え忍んでいる。高尾の会様に毎年、芋煮会の材料として今年の里芋、塩ゆででおいしい落花生を供出する。2019年秋から紅葉鑑賞会がなく、ようやく今年供出が叶いました。

【10/8 定例作業日の戦い】

知る人ぞ知る15D植栽地、ロープウェイで客土した難工事の植栽地です。近くを通ると栗の木が私に助けを求めている。カミキリムシが寄生して瀕死の姿。早々に薬剤と養生テープで緊急対応した。絶対に枯渇させたくない。



枯れたアオモリトドマツ



畑で採れたサトイモ



カミキリムシが巣づいた栗の木

八幡平山行 あれこれ記 大森茂



2018 年 9 月三ツ石小屋一望



2018 年 9 月 三ツ石山にて

10 月 2～4 日に岩手・秋田県境の八幡平北部の源太森・畚（もっこ）岳などを歩いてきました。

八幡平は岩手山と秋田駒を中心とするトドマツ、ブナなどの原生林と湖沼や湿原からなる広大な山域です。2018 年から紅葉期にこの地域を単独で毎年歩いており、今回で八幡平トレイルは岩手側の約 40km を完歩する事が出来ました。

【今回の記録】

10/2：夜行バスで盛岡駅に向いました。（3 日 6:00 到着、路線バスで登山口へ）

10/3：10/4、5 が雨予報のため、当初 10/5 までの計画でしたが、急遽 無人小屋 2 泊を 1 泊に行程変更し、10/4 下山とした。おかげで予定外に長時間歩きバテバテ。

< 登山口 10:30 - 11:20 源太森 - 14:30 畚岳 - 16:20 嶮岨森岳 - 17:30 大深小屋泊 >

観光客はいたが紅葉には早かった。登山者は少なく、無人小屋の宿泊者はいない。

眠れずウトウトしている夜中頃に「こんばんわあ～」の低い声。窓に白～い人影がッ！慌てて「誰ーれッ！」と問い掛けたが静寂のみ。怖わ～い悪夢でした。

10/4：予報通り強風と雨となり、松川温泉（バス停）へ早めの下山とした。

< 大深山荘 7:20 出発 - 8:20 大深岳分岐 - 11:30 松川温泉（12:50 盛岡へ、後帰京） >



2022 年 10 月 畚岳

爽やかなブナ林の道だった筈が、雨で濡れた木道や泥道で転倒する辛い下山でした。

【余録】

八幡平は原生林の自然と景観が素晴らしく麓や山中に温泉宿が多くあり、登山道や無人小屋も地元ボランティアの努力で整備されています。これを利用すればルートや体力に合わせたトレッキングが楽しめます。是非お出掛けください。

新会員紹介

佐直敦子です

皆さんが輝いている
秘密を知りたくて



皆さんはじめまして。佐直敦子と申します。名字は「さなお」と読みます。どうぞよろしくお願いいたします。

普段は街中に住み、オフィスで仕事をして週末のお酒と休日の水泳を楽しみに生きている人間です。山との付き合いは低山ハイキングを年に数回、気が向いたときに歩くくらい。登山なんてとんでもない！

そんな私が高尾の森づくりの会に興味を持ったきっかけは 6 月の体験でした。ハイキング気分を出掛けてバスを降りてからベース小屋まで、歩けど歩けど見えてこない。ようやくベースに着いたと思ったら、会員の皆さんはテキパキ準備して山へ入って行く。巷では 3K とも言われる（失礼！）作業で、しかもボランティア活動。それなのに皆さんの表情は街の人びとより輝いている。その秘密を知りたくて入会しました。

今は皆さんに付いていくことで精一杯ですが、いつか皆さんと同じ境地にたどり着ける日が来るかしらん。

野村美奈です

はじめまして！

この度高尾の森づくりの会に加わることができ光栄です。

きっかけは、いつも休日朝に近所の木場公園でランニングをしているのですが、その日に限ってとても疲れていたの走るのをやめて歩いたところ「みどりのフェスティバル」の看板を見かけ、その日開催されると知り、行ってみたことです。走っていたらまず気づかなかったでしょう。そこで高尾の森の植樹ボランティアの話を聞きさっそく入会しました。

以前から山に行くのは好きでいろいろなグループに入っただけで低山に行ったりしていたのですが、ただ登って下りて帰ってくる、ということに少し虚しさ(?)を覚えていました。しかし初回の参加時から講習で、かなり厳しいお話を聞かされ、また「二丁差し」などという刃物が入ったものを手渡され、これは生半可な気持ちではできないなと覚悟を決めました（笑）

今は英検 1 級受験勉強のためお休みをしていますが、また結果が出たら参加するのを楽しみにしております。



活動記録

8/13	定例作業（台風のため中止）
8/27,28	チェーンソー特別教育 1回目（4名）
8/28	都有林プロジェクト（4名）
9/10	定例作業（会員52名、法人2名）
9/17	チェーンソー特別教育 2回目（4名）
9/18	刈払機講習会（雨天のため中止）
9/25	都有林プロジェクト（12名）
10/8	定例作業（会員59名、法人3名）
10/14~16	第 24 回三宅緑化プロジェクト(延べ 30 名)
10/23	都有林プロジェクト（7名）
10/29	機械作業実践講習（2名）

林道復旧工事状況



第1ゲートまでの林道補修が8月末に完了し、立派な道ができました。
また、第1ゲートから先の西側50mの復旧工事が2023年3月末完成予定で実施されます。作業小屋までは十分注意して通行ください。

忘年会のお知らせ

皆さん、
お待たせしました。
3年ぶりに
忘年会を開催します。



- 日 時 12月10日（土）
定例作業終了後 16:00～18:00
- 場 所 高尾山FumotoYa
（京王線 高尾山口駅出口すぐ）
- 会 費 2,000円
- 申込み 個人、法人会員は各班リーダー、サポート班は早川副代表
たくさんのご参加をお待ちしていまぁ～す。

活動実績と予定

11/1	一丁平作業（会員8名、京王2名）
11/12	定例作業、法人向けミニ植樹祭
11/26	機械作業実践講習
11/16,17	美林見学会（長野県大町市）
11/19～27	高尾599ミュージアム 「高尾の森と生き物たち」展示
11/20	清新第一小学校 父子森林スクール
12/10	12月定例作業、忘年会
12/26	機械作業実践講習
11/27	都有林プロジェクト
1/14	定例作業
1/22	都有林プロジェクト

会員動向

入会：ようこそ

藤原 弘さん

退会：お疲れ様でした

三葉 幸二郎さん

幹事会報告

（詳細はホームページ会員専用ページを参照ください）

◆ 8 月

- 協議事項 1. 新組織役割分担について
- 協議事項 2. 4の沢上部の新規植栽地の利用について
- 報告事項 東京神奈川森林管理署訪問、他

◆ 9 月

- 協議事項 1. ミニ植樹祭、2023年植樹祭の運営について
- 協議事項 2. 新板当地区の作業道整備に関して

◆ 10 月

- 協議事項 1. 植樹祭、新板当地区用道具小屋、ドローン新規購入の費用について
- 協議事項 2. 美林見学会について

◆ 訃 報

三葉幸二郎さん（80歳）が10月16日にお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします

編集後記



●編集委員になってから4回目の会報誌でちょうど1年の区切りを迎えますが、未だに編集委員慣れません。
●今回は悪天候によるイベント中止などもあり、企画の段階で特に大きなイベントもなく、何のネタも思いつかず呆お～然！ そんな中、たくさんの方々のご協力でなんと4回目の発行を迎えることができました。今後皆様のご協力をよろしくお願いしまぁ～す。（大島徹）

